保育におけるICT活用の現状と課題

～ICTを楽しく手軽に！園における活用アイディア～

群馬県総合教育センター幼児教育センター

情報化社会の進展に伴い、保育現場においてもＩＣＴ活用への注目が高まっています。
しかし、導入にあたってのインフラ整備や職員のＩＣＴへの苦手意識などから、なかなか導入・活用が進まない現状もあるようです。
そこで今回は、手軽にできるＩＣＴ活用事例について紹介します。

○タブレットのカメラ機能の活用

先日ある園を訪問した際、園児がみんなで長縄跳びをしていました。上手に跳べている４歳児の跳び方をタブレットで撮影したところ、いっしょに遊んでいた３歳児が集まって見始めました。そのあと、何度も長縄跳びに挑戦し、少しずつ跳べるようになっていきました。

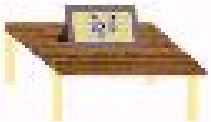
【お兄さんの跳び方を真剣に見て】

【自分自身もチャレンジ！】

○デジタルフォトフレームの活用

今年度、保育アドバイザー派遣事業で県内の園に指導主事が訪問し、ＩＣＴの活用について研修を実施しました。その中で、デジタルフォトフレームの活用について紹介してきました。

タブレットやカメラで撮影した画像を、そのままデジタルフォトフレームに転送し、保護者や園児の目に触れる場所に置いておくだけで、その日の保育の様子を自由に見ることができるコーナーができます。



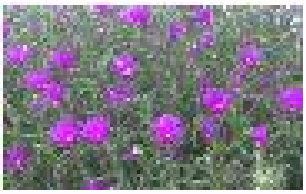
○タイムラプス撮影機能の活用

最近のタブレットＰＣや家庭用ビデオカメラには、タイムラプス撮影の機能が付いているものがあります。

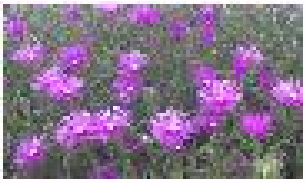
植物の開花の様子やチョウの羽化の様子、影の位置や長さなど、時間をかけて徐々に変化するものを撮影してみたら面白い映像が撮れるかもしれません。

ビデオカメラを三脚で固定し、撮影開始！

カメラが自動で５秒ごとに写真を撮影してくれます。



１時間経過したところです。だんだん開いてきました。定点撮影なので、撮影者は別のことをしていても問題ありません。



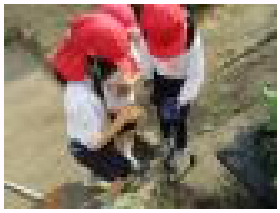
２時間ですっかり花が開きました。タイムラプスなら、２時間分の変化を約１分で観察することができます。

【マツバギクの開花の様子（約２時間分）】

○マイクロスコープの活用

虫の体のつくりや植物の表面などを、マイクロスコープを使って観察してみるのも面白そうです。

先日訪問した園では、泥団子づくりに夢中になる５歳児の姿がありました。そこで、「ちょっと表面がどうなっているのか見せてくれる？」とお願いし、マイクロスコープの映像をみんなで見てみました。子どもたちはみんなの泥団子の表面を見比べて、粒の大きさや滑らかさの違いに気付いたり、葉っぱやコンクリート、タイヤの表面の様子などにも興味を示していました。



【泥団子の表面を観察】

【葉っぱはどうなってる?】

【集まっていろいろなものを観察】

今回使ったマイクロスコープは5000円くらいで購入できる、比較的安価なものですが、タブレットと接続して撮影したものを映せるので、子どもたちもすぐに操作に慣れ、たくさんものを見ようとしていました。映した映像は静止画や動画で保存できるので、繰り返し見返すこともできます。

エピソード「ポケモンショーの始まり」

先日、ある園で保育の様子を参観したときのこと。子どもたちが何人かで集まって、ポケモンごっこをして遊んでいました。戦いがだんだんヒートアップしてきてしまい、（このままだと、けんかになっちゃうのかな…）と心配になりかけたそのとき、先生がタブレットＰＣを持って登場しました。

子どもたちはカメラを向けられていることに気付き、急に役者さんモードに！そこからはポケモンショーの撮影会が始まり、いつの間にか撮影する係の子、主役のポケモンの子、敵役のポケモンの子、観客の子など、いろいろな役割に分かれて遊びが始まりました。

けんかになりそうな雰囲気を察知してカメラを向けた先生もさすがでしたが、カメラをちょっと向けてみるだけで、子どもたちの意識が転換することに気付かされた一幕でした。

近年、急激にＩＣＴの活用に注目が集まっています。園ではこれまでも、園内研修において写真や動画を活用したドキュメンテーションを取り入れていたり、保護者に日々の子どもたちの様子を伝えるために写真を掲示したりするなど、様々な工夫がされてきています。

今回の幼児教育センターだよりでは、特に幼児が見たり、使ったりすることに視点を当てたＩＣＴの活用について紹介しました。今の子どもたちはデジタルネイティブ世代であり、タブレットやスマートフォンが非常に身近な環境に生きています。だからこそ、園では直接的な体験を大切にしつつ、その中に子どもたちの好奇心や気付きを促すためのＩＣＴの活用が求められているのではないでしょうか。今回紹介した事例が、先生方の参考になれば幸いです。